

2021年度ICT利用による教育改善研究発表会
受賞者決定

1. 本発表会の趣旨

本発表会は、全国の国公立大学・短期大学教職員を対象に、教育改善のためのICT活用によるFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の振興普及を促進・奨励し、その成果の公表を通じて大学教育の質的向上をはかることを目的とする。優れた発表に対しては、文部科学大臣賞（最優秀賞）、協会賞（優秀賞）、奨励賞を授与し、その教育業績を顕彰するとともに、本協会ホームページに掲載、公開する。

本発表会は今年度で29回目となり、これまでに文部科学大臣賞5件、私立大学教育協会賞33件、奨励賞51件、佳作4点を顕彰してきた。なお、本発表会では毎年度、文部科学省の後援と文部科学大臣賞の交付が認められている。

2. 選考方法および結果

2021年度のICT利用による教育改善研究発表会は、引き続きオンラインによる発表会となり、発表者全員に発表映像の事前提出を求めた。発表会当日は、会場からの発表配信を行った後、発表者にはネットによる質疑対応を求め、聴講参加者はネットによる聴講と質疑の方法で令和3年8月25日（水）にアルカディア市ヶ谷（私学会館）を配信会場として開催した。初年次、情報、人文科学、語学、社会科学、理学、工学、農学、生活家政、幼児初等中等、医療、芸術、スポーツ、地域創生、キャリア、データサイエンスAI等の教育分野から54件の発表があった。選考は、「ICT利用による教育改善の目的・目標が明瞭になっていること」「ICTを利用した教育改善の内容と方法が明瞭になっていること」「教育改善の効果が示されていること」を基準に行い、授賞選考委員会により8件の研究を選考した。その後、9月25日（土）に行った2次選考の結果、「奨励賞」2件の授賞が決定した。表彰式は、11月29日（月）に本協会の第32回臨時総会の冒頭に行い、文部科学省専門教育課の塩川課長による来賓挨拶、本協会の向殿政男会長による発表会の概要説明と本年度結果報告の後、奨励賞の表彰楯の授与を行った。受賞者は次の通り。



左から文部科学省専門教育課塩川課長、
受賞者の兵庫大学短期大学部田中氏と流通経済大学小谷氏、本協会 向殿会長



文部科学省 塩川課長



本協会 向殿会長

2021年度ICT利用による教育改善研究発表会 受賞者

奨励賞

■「ピアノ個人レッスンにおけるICT利用による効果的な指導と自主的な学習への導き」



兵庫大学短期大学部
田中 敬子氏

<授賞理由>

本研究は、ピアノの個人レッスンにオンライン会議システムを用いて、教員と学生が双方向で弾きあう指導方法や毎回レッスンの修得度を点検・記録するシートを授業支援システムで教員と学生に配布するなど、学生の自主的な学習へとつなぐ授業改善の取組みである。対面授業時よりも更に上のグレードを目指し、自主的に学修する傾向が多く見られ、結果として不合格者が半減した点は高く評価できる。また、対面では行えなかったICTによるグループワークやYouTube動画の視聴など教育方法の工夫により、学生の学修意欲が促進された。将来、学生の学び方改革にもつながる研究に今後の発展が期待される。

奨励賞

■「ハイフレックス型による体育実技『バスケットボール』の有効性」



流通経済大学
小谷 究氏

<授賞理由>

本研究は、体育実技（バスケットボール）の満足度や参加度を対面授業と相違ないものとするため、対面とオンライン同時に実施するハイフレックス型授業による授業改善の取組みである。

履修者50名を25名ずつ2グループに分け、交互に体育館とオンラインで授業を受けることで、実技の履修時間は半減したが、反面、オンラインでは実技の試合をタブレットで配信し、グループで観察・分析した課題を体育館にフィードバックすることで、オンライン学修者に授業への参加度を高めた。また、試合中のプレーヤーの行動がハイフレックス型授業の方が早く改善されることが示されており、対面授業よりもむしろ教育効果が高くなったという点が評価できる。